

録・福井県. 812 pp.
 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 1985. 福井県昆虫目録. 福井県. 404 pp.
 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 1998. 福井県昆虫目録 (第2版). 福井県県民生活部自然保護課. 556 pp.
 Griffis, W. E., 1880. Japanese Fairy World: Stories from the Wonder-lore of Japan. James H. Barhyte, New York. 304 pp.
 Griffis, W. E., 1894. The Mikado's Empire (皇國). seventh edition. Harper & Brothers, Franklin Square, New York. 661 pp. [ちなみに「皇國」というのは、後世の日本人が付けた訳名ではなく、原著の背表紙に漢字で書かれている。]
 Griffis, W. E., 1923. Japanese Fairy Tales. George G. Harrap & Co., LTD, London. 219 pp.
 グリフィス著・山下英一訳, 1984. 明治日本体験記. 平凡社. 343 pp.
 行幸記念福井県博物学会編, 1938. 原色福井県昆虫図譜. 行幸記念福井県博物学会. 72 図版+索引 42 pp.
 池庄司敏明・山下興亜・櫻井宏紀・山元大輔. 正野敏夫, 1986. 昆虫生理・生化学. 朝倉書店. 262 pp.
 井崎市左衛門編, 1932. 福井県の昆虫. 70 pp. (非売品)
 石川むしの会・百万石蝶談会編, 1998. 石川県の昆虫. 石川県環境安全部自然保護課. 537 pp.
 Johnson, P. J., 2002. 58. Family Elateridae Leach, 1815. pp. 160-173. Arnett, R. H. Jr., M. C. Thomas, P. E. Skelley, & J. H. Frank (eds.). American beetles, vol. 2. CRC Press, Boca Raton. 861 pp.
 河合千秋編, 1936. 福井県の伝説. 郷土研究部. 640 pp.
 蔵原三雪, 1994. W. E. グリフィスの明新館における教育活動. 武蔵丘短期大学紀要, (2): 1-12.
 蔵原三雪, 1995. 明新館における W. E. グリフィスの化学授業.

武蔵丘短期大学紀要, 3: 1-10.
 蔵原三雪, 2000. W. E. Griffis の理化学教養の形成. — ラトガース大学科学教育の展開を通して—. 科学史研究, 39: 144-153.
 岩下 均, 2002. 古典文学における日本人の蛙観. 目白大学人間社会学部紀要, (2): 11-26.
 沖 久也, 1996. グリフィスの福井における化学教育. 化学の教育, 44: 24-25.
 Preston-Mafham, Ken, 2012. World of animals. Vol. 25. Insects and other invertebrates. Brown Bear Book LTD, London. 128 pp.
 佐々木忠次郎先生伝記編纂会, 1940. 佐々木忠次郎博士. 377 pp. (非売品)
 杉原丈夫編, 1970. 越前若狭の伝説. 松見文庫. 838 pp.
 高田兼太, 2011. 甲虫と人類の文化 — ホタル科の文化昆虫学概説. さやばねニューシリーズ, (2): 25-31.
 高橋是清, 1936. 高橋是清自伝. 千倉書房. 806 pp.
 山下英一, 2003. グリフィスの福井からの手紙. 若越郷土研究, 48 (1): 30-40.
 山下英一, 2006. グリフィスの福井民話. 若越郷土研究, 51 (1): 6-17.
 山下英一, 2009. グリフィスの日本昔話. 若越郷土研究, 53 (2): 1-12.
 山下英一, 2012. グリフィス福井日記・書簡に見る廃藩について. 若越郷土研究, 56 (2): 25-35.
 山下英一, 2013. グリフィスと福井 (増補改訂版). エクシート. 362 pp.

(2013 年 12 月 10 日受領, 2014 年 2 月 9 日受理)

【短報】伊豆諸島三宅島におけるクシヒゲチャイロコメツキダマシの記録

クシヒゲチャイロコメツキダマシ *Hodocerus malaisiensis* Bonvouloir, 1872 は、シンガポールおよびマレー半島より得られた個体に基づいて命名記載された種で、これまでに、日本、台湾、インドシナ半島、マレー諸島に広く分布することが知られている。日本国内では九州、伊豆諸島、黒島、屋久島、琉球の分布が知られているが、採集例は少ない (久松, 1985; 鈴木, 2007)。筆者は、三宅島で採集された本種を複数個体検することができたので、ここに記録しておきたい。

1♀, 東京都三宅島大路池, 21-22. VII. 2010, 高桑正敏採集; 1♂1♀, 東京都三宅島大路池～坪田, 14. VII. 2013, 藤田宏採集 (図 1)。

伊豆諸島における本種の分布については、伊豆諸島全体をあげた例はあるが (久松, 1985), データを伴った記録はこれまでにない。梅谷 (1955) は、三宅島の採集記の中で「コメツキダマシの一種」を図示しているが、その特徴から判断して本種ではないかと考えられている (鈴木, 2009)。

本種は、日本に生息するコメツキダマシの中では、ヒゲナガ

チャイロコメツキダマシ *Serrifornax tumidicollis* (Redtenbacher, 1867) に似るが、触角は第 4 節より雄では強く、雌では弱く櫛歯状となることや、上翅末端が尖らないなどの特徴により識別することができる (久松, 1985)。

今回の本種の記録により、伊豆諸島三宅島で生息が確認されたコメツキダマシの種数は、10 種となり、日本の離島で現時点で明らかにされている種数の中では、屋久島、対馬に続く数字となった。

記録をするにあたり、貴重な標本をご提供くださった、高桑正敏博士ならびに藤田宏氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 42-51 (pls. 8-9). 保育社, 大阪.
 鈴木 互, 2007. 鹿児島県大隅半島におけるクシヒゲチャイロコメツキダマシの採集例. 甲虫ニュース, (160): 11.
 鈴木 互, 2009. FIT により採集された伊豆諸島三宅島のコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (168): 17-18.
 梅谷 二, 1955. 伊豆諸島昆虫風土記 2 ～三宅島の記～. 新昆虫, (8): 14-19.

(鈴木 互 法政大学第二高等学校生物科)



図1. 三宅島産クシヒゲチャイロコメツキダマシの♂.